

いつもありがとうございます。きしゅう会計の名倉です。

前号に引き続き一気に分かるシリーズ。今回は、お待ちかね

鬼滅の刃。

観てきました！映画版無限列車編。面白かったです。

アニメも全部見ました。そう先々週末は鬼滅祭りで、目に番号が入るくらい全集中の呼吸してました(鬼滅ネタだらけ 笑)。

では簡単にあらすじを書いた後、何故これだけうけているか名倉なりの所感を書きます。時代は大正。明治維新も終わり、世界大戦の始まる前、落ち着いた時代です。ただ、人間を襲って食べる鬼がいることを除いて。主人公は竈門炭治郎(かまどたんじろう)15歳。竈門家の長男。若くして亡くなった父の代わりに一家の大黒柱となり、母と一緒に、5人の兄弟姉妹の生活を支える心優しき少年。山奥に住居を構え、炭焼きで生計を立てています。雪の降る年の瀬、炭次郎は1人、山を下りて炭を売りに行きます。



帰りが遅くなった炭次郎は山の麓の知り合いのおじさんに「夜は危ないから、明日帰りな」と声を掛けられ、その夜はおじさんの家に泊めてもらいます。翌朝家に戻った炭次郎は愕然とします。一家は惨殺され、辛うじて息があったのは妹の禰豆子(ねずこ)だけ。しかし禰豆子

は傷口に鬼の血を浴び、鬼になってしまいます。鬼は人を食べないでいられない体質になるので、鬼の禰豆子は大好きな炭次郎にまで襲い掛かるのですが、昔の思い出が頭



をよぎり、涙を流しながら正気を取り戻します。でも鬼の感情と人間の感情が交差する禰豆子。(禰豆子は人を食べたくなくなるのをこらえるためにずっと竹製の口枷をつけることとなります)。炭次郎は鬼になった禰豆子を人間に戻すための旅に出ると言ったお話。うーん、このペースで書いていくと他の記事が書けないですねえ。しかも、この書き方では、「で、何が面白いの?」となってしまいますね。そこで作戦変更いきなり総括。コミックは全23巻で終了しています。アニメは6巻目までで、シーズン1が終了。大きく盛り上がった7巻目が映画化、広報も巧ですが、うけているのは沢山の濃ゆいキャラクターと勧善懲悪でもない深い設定。前述の通り、鬼は全て元人間。残忍でグロテスクな姿をしていても、人間だった頃の子供の姿や、思いが映し出されたり、また鬼は不老不死になるため、病気で死を間近に迎えた人が生きるために鬼になる選択をするなど、一話一話が細かく設定されています。また鬼を退治する政府非公認の組織、鬼殺隊(炭次郎はここに所属することになる)。謎めいたその親方様、魅力的な柱(9人の隊長?)、鬼の親分の鬼舞辻無残(きぶつじむざん)は人間の奥さんと子供と暮らしてい



る。鬼であるけど医師で無残を倒そうと目論む珠世さん。



結構意味深に展開されていきます。また鬼にも階級があり、12鬼月という精鋭部隊も登場。戦闘シーンも迫力があります。ただ、予備知識無く小さな子供といきなり、映画を観に行く場合はご注意ください。グロく残酷なシーンも多いので泣き出してしまい、親が外へ連れ出している家族もありました。この作品を一言でいうと、炭次郎が禰豆子や仲間とともに敵と戦い、成長していくジャンプの王道、「友情、努力、勝利」を描いたバトルもの。



前号で最初はハマらなかったと書きましたが、それは、いきなりの天狗の面等、キャラが濃ゆく、とっつきにくかったのと、ギャグのシーンではセリフの緩さもあり、世界観に入れなかったからかな。映画を見て、そこを抜けたのでしょ。そうすると、灰汁も出汁となり、一気にでした。さて、「一気に分かるシリーズ」とっておきながら、よく分からん書きものになってしまいました。うーん、全集中反省の呼吸(笑)

余談。TOHOシネマで観たのですが、嫁と行くと夫婦100歳割引、二人で2,200円で観れます。注意書きに年齢確認のため、免許証等の提示を求めるとありますと書かれています。一度くらい「免許証をお願いします」と言ってほしいものです(笑)

「ビットコインの復活!？」



2017年に、億り人という言葉をも有名にしたビットコイン。でもこの時はバブル。崩壊も一瞬でした。しかし、2020年現在その時の最高値231万円を超える勢いになってきています。またバブル?いえ、今度は少し状況が違うようです。

3年前の爆上げ相場の際はまだビットコインは使うことはほとんどできなくて、単なる投機対象、市場への参加者もほとんどが個人。企業は傍観していたのです。ところが、最近になり、ビットコインに懐疑的だった経済学者等も「思い違いをしていたかも知れない」など言い出す人もいて、また米国では上場会社のマイクロストラテジーが今年購入したビットコインは今年の10月末で38,250BTC(現在時価約730億円)で、すでに数百億の含み益が生じており、今後も余剰資金で買い増しする方針であると発表している。



また今年の10月には、米国決済サービスの大手、PAYPALが、ビットコインの取り扱いを始めると発表。これらを受けて、他の企業もビットコインの取り扱いが激増することが予想されているようです。その背景にはコロナ渦で、世界各国が経済を維持するために自国通貨を擦りまくったことが起因しているという。大量に擦りまくられた貨幣の価値は当然下落する。貨幣の価値が下落すればインフレが発生。これは物の価値が

上がることを意味する。そこで、マイクロストラテジー社のマイケルセーラー社長は会社にある通貨の価値が下がるリスクをヘッジするためにビットコインを購入したという。中小企業なら分かるけど、上場会社で、この規模でやるなら相当な覚悟があるんでしょう。最初に買ったあと、自社株買いも発表。この私の方針に文句ある株主は株を買ってあげるよということ。ほとんどの株主はそれに応じ



なかつたらしい。PAYPALのビットコインの取扱いが実際に始まれば、一段と知名度が上がり、さらなる上昇が期待されるで

しょう。そんなこんなで、2017年のバブルとは様相が異なっているのです。また、ビットコインは供給される量が4年ごとに半分になるようにプログラミングされていて、また総量も2100万枚と決まっています。つまり、他の暗号資産と違い、希少価値があるということ。「そうはいつでも、実態のない単なる記録でしょ」という意見もまだ多くあると思います。でも金やダイヤ



モンドが高価なのは何故でしょう。それは人が価値があると思うからです。実態のない記録でも、人が価値があると思えば価値が生じるのです。近頃ビットコ

インはデジタルゴールドと呼ばれており、金の流通量や価格の推移から計算して、将来的には1BTC、3000万円になるとか、5000万円になるとか1億円になるとか言われています。どこまで上がるかはもちろん分かりませんが、機関投資家も取り扱いを始め、投

資信託にも組み込まれた現状を考えれば、資産の一部に取り入れてもいいのかなと思います。ただ、そうはいつでも海のモノか山のモノか分からないものであるのも確かです。大きく値下がりすることも勿論あります。なので、持つとしても自分の資産の1%から3%までしておきましょうとよく言われています。100万円お持ちの方なら、1万~3万円、1000万円お持ちの方なら、10万円~30万円って感じです。今現在2020年11月25日7時で1BTC約193万円です。「えっそれじゃ買えないやん!」と思われるかも知れませんがご安心あれ、取引は1単位でなく、0.1や0.01や0.001単位でできますので。数年、数十年先に当たりが発表される宝くじを買うくらいのつもりで投資されるのがいいと思います。名倉もわずかですが買いました。でもこれでうまくいけば老後資金2000万円問題が解決されるかもなんて思っています。



「金融リテラシー研修」

先週、事務所のスタッフに、金融リテラシー向上研修を実施しました。僕がお世話になっている海外投資に詳しい知人に講師を依頼して、投資の



考え方から、海外の優良な投資信託等について話して貰い、投資経験のないスタッフにも好評でした。その中で面白かった内容を少し書きます。投資をしたことのない人は元本が減ることがあるので、怖いものという認識のようです。もちろん投資

にリスクはありますが、日本の銀行の普通預金では金利が0.001%。増えるのを実感するにはちょっと難しい金利です。ただ、投資には元本が減るリスクを考える前に考えないといけないリスクがあると言います。それが詐欺リスク。元本保証で高額な配当をうたった投資詐欺には、豊田商事、未来通信、円天、エビ養殖等々、いくらでもあります。どの投資詐欺も共通していることがあるそうです。それは、自分のお金を話を持ってきた人に渡すということ。よく分からない会社に振り込ませるということ。なので、怪しい話が来た場合、詐欺かどうか見分けるためには、自分のお金を誰に預けるか、預けた人がいなくなったらどうなるかを考えてくださいと彼は言います。勿論、人に預ける投資が全て詐欺とは言いませんが結構な確率で詐欺だとも。なので、一番いいのは金融取引のライセンスを持っている証券会社に自分の口座を作ってそこに預けて、その口座を運用してもらう方法です。彼は東京や大阪で、お金の勉強会を開催しているのですが、中には現役の刑事さんも勉強会に来られるそうです。そして、その刑事さんに「詐欺にあわないためにはどうすればいいですか?」と質問したところ、その刑事さんはじーっと考えて「知らない人についていけない」って答えたそうです。これは誘拐されない方法ですよ(笑)

日本では投資信託ってあんまりいい評判も商品ありませんが、海外には低リスクでパフォーマンスのいい商品があるといえます。彼、海外の金融商品をすごく勉強しているんです。ご興味のある方は勉強会に行ってみてください。最後にもう一度念押しですが、人に預ける高額投資は危険です。ご注意ください!



「事務所通信かわら版が変わります」

気が付くと50号。時々力尽きていたこともありましたが、よく続いたものです。この形にして1回大体4000字はありますので、累計約20万字書いたことになります。少しは文章も上達したかなと思いますが、誤字脱字は相変わらず。最近減っているよと言われるかも知れないですが、それは娘が校正してくれているからで、これもいつまで続くことか(笑)

そこで、次の12月号で、このような郵送での形式を一旦やめて、形を変えて、メールとA4判大型ハガキで配信したいと考えています。これは「ちょっとボリューム多すぎ」との意見をよく頂き、少し工夫がいるなと思い、ボリュームを減らして、内容を絞り、もっと身近でとつきやすい内容にしようと思います。また、観てほしいお薦め動画などのQRコードをつけて、お届けしようと思っています。このかわら版はブログとして変わらない情報量でお届けする予定です。つまり、撤退ではなく、進化です。どうかご期待ください。

来月の51号の予告

住野よる特集

お薦め映画「神様がくれた時間」等々

お楽しみプレゼント!(郵送版の方)

事務所の看板

変えました



名倉肥えました。ダイエット開始します

(*_*;

